

第一回 食料・農水産業領域に係る国際標準戦略検討会
議事要旨

日時：2026年1月27日（火）15:00~17:00

開催場所：農林水産省 三番町教養会議室第3会議室、Teams

出席者：※以下敬称略

※オンライン参加

委員

出田 宏※（いずた ひろし） 株式会社食品信頼開発研究所 代表取締役

江藤 学（えとう まなぶ） 国立大学法人 一橋大学
イノベーション研究センター 特任教授

小倉 千沙（おぐら ちさ） 株式会社メロス 代表取締役

坪山 宜代（つぼやま のぶよ） 防衛装備庁防衛イノベーション科学技術研究所
プログラママネージャー（災害食国際規格委員会
委員長）

元林 浩太（もとばやし こうた） 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合
研究機構 国際標準化推進室室長

谷貝 雄三（やがい ゆうぞう） 内閣府知的財産戦略推進事務局企画官
（所用により欠席）

（敬称略・50音順）

オブザーバー

栗原 秀夫※（くりばら ひでお） 独立行政法人 農林水産消費安全技術センター
規格調査部国際規格調査課 課長

木滑 彩華※（きなめり あやか） 一般財団法人 日本規格協会
スタンダード・コンサルティングセンター
農林規格開発チーム

柴田 章※（しばた あきら） 一般財団法人 日本規格協会
スタンダード・コンサルティングセンター所長

森下 美奈子（もりした みなこ） 一般財団法人 日本規格協会
スタンダード・コンサルティングセンター
農林規格開発課長

島崎 真人※（しまざき まさと） 一般財団法人 日本農林規格協会 専務理事

宮田 理恵子※（みやた りえこ） 一般社団法人 日本農林規格協会

内閣府 知的財産戦略推進事務局*
農林水産省 輸出・国際局 輸出企画課
農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究開発官室*
農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究統括官室*
農林水産省 大臣官房 政策課 技術政策室

(敬称略・所属別 50 音順)

事務局

| | | | |
|--------|-------|------------------------|------------|
| 谷 秀治 | 農林水産省 | 大臣官房新事業・食品産業部 食品製造課 | 基準認証室 室長 |
| 山田 健太郎 | 農林水産省 | 大臣官房新事業・食品産業部 食品製造課 | 基準認証室 課長補佐 |
| 金原 佑莉 | 農林水産省 | 大臣官房新事業・食品産業部 食品製造課 | 基準認証室 係員 |

(敬称略)

株式会社野村総合研究所
Nomura Research Institute Singapore Pte. Ltd.

<配布資料>

- ・議事次第
- ・資料1 出席者名簿
- ・資料2 検討内容
- ・資料3 参考資料

1. 開会挨拶

- (事務局から開会挨拶を実施。)

2. 資料説明・意見交換

2.1) 戦略検討の進め方・本日の検討事項

- (事務局から戦略検討の進め方・本日の検討事項について説明。これに対し、質疑はなかった。)

2.2) 食料・農林水産業の国際標準戦略素案

(事務局 山田)

- (事務局から戦略素案の「はじめに」、「第一章」について説明。)

(小倉委員)

- 1.1 の前半には、新産業創出や農業変革を示すため、イノベーションを支える視点を入れると良いと思う。
- また、6 ページ 20 行目以降の規制対応については、特に欧州向け輸出で既に障害が生じている実情を記載しても良いと感じた。

(坪山委員)

- 「はじめに」の冒頭で国際標準化の意義や目的を明確にし、社会課題解決や市場創出への効果を最初に示すと、読み手の意欲が高まると思う。
 - 冒頭の気候変動や防災などの課題についても、国際標準化が解決にどうつながるのかを明示すると良いと思う。
- 「はじめに」の最後には、産業界や学术界への意識改革・行動変容を促すメッセージを入れ、当事者意識を持たせると良いと感じた。
- 第 1 章の標準化のメリット部分は埋もれがちなので、1.2 等の見出しを立ててリスクと共に明確化し、抹茶の事例などを強調すると良いと思う。

(元林委員)

- 今後重要性が増す 6 ページの規制対応の部分は分量が少ないため、欧州の森林規制やスマート農業の AI 規制などにも触れた方が良かった。
- 「はじめに」の国際標準の定義は、標準化団体以外による検査技術なども含めるべきだと思う。海外団体が規制的に運用する畜産や種子等のケースも読み取れる記述にすると良いと思う。

(出田委員)

- 1 ページ目 20 行目の国主導の記述に関連して、食料安全保障への貢献も言及すべきだと思う。「ひいては我が国の食料安全保障にも密接に関連する」といった記載が一案であると考えます。
- 用語の統一が必要である。標準化を行う視点では「規格」、第三者による適合性評価の活用の観点では「認証」と整理すると、読み手が理解しやすいと思う。

- 3 ページ目 2 行目は、自己宣言も含めるため、「規格への適合を示す第三者認証を含む適合性評価」と幅広く書いた方が良いと思う。
- 5 ページ目のリスクに、投資対効果のバランスが崩れてコスト浪費につながる点を記載すると、活用の事前検討を促す意識につながると思う。
- 6 ページの生産性向上は、「基盤整備の一環」と位置づけることで、海外展開のための環境整備も含める形にした方が良いと思う。
- 6 ページ目 20 行目以降は、規制・認証の新規開発か既存活用かが分かりにくい。また、「規制」が国のものか取引先要求なのかを明確にしてほしい。

(谷貝委員(事務局にて代読))

- 2 ページ目 12 行目付近は、デファクトスタンダードの有無に関わらず差別化を図る趣旨だと思う。「日本の技術を規格に組み込む」より「技術の優位性を生かせる規格化を図る」といった表現が適当ではないか。
- 3 ページ目 2 行目以降の適合性評価は第三者に限らないはずである。第 2 章以下でも重視されているようなので、今後の追記を期待したい。
- 5 ページ目について、「新たな国際標準戦略」で重要とされる経済安全保障の観点も加味してはどうかと考えた。
- 6 ページ 3 行目以降のフードテックは、安全性や環境負荷等の可視化も想定されるため、必ずしも生産性向上に限る必要はないと考える。
- 7 ページ 15 行目以降は、競争優位性によるシェア維持・拡大が基本戦略だと思うため、「市場創出」より「シェア拡大」とする方がしっくりくると感じた。

(江藤委員)

- 「はじめに」では、今まさに標準化が必要な理由を明確にし、切迫感が伝わる書きぶりにすべきだと思う。
- 「国としての関与を高める」という表現は、国がリーダーシップを取って進めるという強い意気込みを示す言葉にすべきだと感じた。
- 第 1 章のメリット・リスクの記載順は、メリットと他国主導に従う危険性を先に書き、標準化によるリスクは後に回すべきだと思う。
- 「市場創出」は狭義に捉えられかねないため見直すべきである。また、「規制対応」は既存規制への対応と新規ルール作りが混在しているため、分けて記載すると混乱が減ると感じた。

(事務局 山田)

- (事務局から「第二章」について説明。)

(小倉委員)

- ①-1「高品質・高付加価値の農林水産物・食品」の16行目付近について、質の高さだけで勝負するのは難しいため、文化や歴史的背景などの観点も加えるべきだと思った。
- 10ページの「高機能バイオ素材」はバイオ医薬品に記述が偏っている印象がある。バイオステミュラントやケミカル系など、生物由来資材全般の問題として広く捉えるべきだと感じた。
- 11ページの「スマート農業」は農機に寄りすぎていると思う。AI、センサー、植物工場など多様な展開があるため、視野を広げた記述にすべきである。
- 「栄養評価」については、日本食に関連して「味」といった要素も考慮できるのではないか。
- 「GHG削減・吸収ビジネス」には、生物多様性や水資源循環などの観点も入れるべきだと考える。これから標準化が必要なこれらの領域に対し、農林水産省も積極的に関与していくべきだと思った。

(坪山委員)

- 11行目の「高品質・高価値の農林水産物食品」の事例や見出しに、既に国際規格化が進んでいる「災害食」を明記すると、日本の取り組みの進展が分かりやすくなると思った。
 - 関連して、①-3として「災害食」の項目を追加し、新たな日本の強みとして可視化できるのではないかと感じた。
- 9ページ33行目の「川下領域を規格化し市場を拡大させる」という記述はイメージが湧きにくいいため、想定内容を具体的に記載すると分かりやすくなると思った。

(元林委員)

- ②-1の「世界に誇る農業機械メーカー」という記述は、ASEANでの日本製農機シェアなど客観的なデータを背景にした表現に改めてはどうか。
- スマート農業の記述が機械に偏りすぎているため、AIに関する記述もあっても良いと感じた。
- 括弧書きで逐一「デジュール標準」や「フォーラム標準」と記載するのは不要ではないかと思った。
- スマート農業技術はカーボンクレジット算定にも役立つため、GHGの課題との連携について踏み込んで記述すると良いのではないかと考えた。

(出田委員)

- 9 ページ 28 行目の「標準活用の方向性」は、規格と適合性評価の活用が混在して分かりにくいいため、誤解を招かないよう明確に分けて記載した方が良いと考える。
- 10 ページのスマート農業については、TC23/SC19 や TC347 との関係や、規格後の適合性評価スキームに言及することで、国際標準との紐付けができるのではないかと感じた。

(江藤委員)

- スマート農業の記述が「ASEAN 市場さえ取ればよい」と読めてしまうため、「ASEAN を足掛かりに世界市場を獲得する」というイメージの文章にすべきだと感じた。

(谷貝委員(事務局にて代読))

- 第 2 章全体について、内閣府の「新たな国際標準戦略」をベースに検討するのは良いが、見落としの可能性もあるため、必ずしも同戦略に縛られる必要はないと思った。

(事務局 山田)

- (事務局から「第三章」について説明。)

(小倉委員)

- 14 ページ 13 行目は、必要性の未認識に加え、個社では投資負担が大きすぎて実行できないケースもあるため、両方の観点を入れるべきだと考える。
- 14 ページ 28 行目の「産学官金」は、金銭的支援のみを指すなら「金」は不要であり、もし入れるなら金融機関の役割も明確に位置付けるべきだと思った。
- 15 ページ 3 行目からの「標準エコシステムの強化」は人材育成に偏りすぎている。人材同士をつなぎ、実質的な議論や活動ができる仕組み作りこそがエコシステムであるため、分けて考えるべきだと感じた。
- 15 ページ 29 行目以降の「国際連携の強化」は、特に ASEAN を視野に入れ、技術・資金援助と標準化を組み合わせることで日本の規格を海外へ普及させる動きを、戦略的かつ強力に進めるべきだと考える。

(坪山委員)

- 「自ら国際標準を作ることができる」というメッセージを「はじめに」に含めると、より力強い発信になるのではないかと感じた。

- 14 ページ 13 行目の課題には、「自分で規格を作れること」自体がまだ広く知られていない点も追加してはどうかと感じた。
- 15 ページ 3 行目の「標準エコシステム」は、人材育成の重要性を明確にするため、項目を分けるかタイトルに「人材」を加えるのが良いと思う。
- 推進側と支援側の具体的な役割分担が分かりにくいいため、どのような主体が何を担うのかをこのセクション内で明記すべきだと感じた。
- 15 ページ 35 行目からの国際連携で目指す役職に、議長や幹事長だけでなく、より身近な「プロジェクトリーダー」も加えてはどうかと提案する。

(元林委員)

- 「標準エコシステムの強化」の項目は、人材育成と論点を分けて整理すべきだと考える。人材がいればエコシステムが強化されるわけではないため、その差分を明確にし、エコシステム強化に必要な具体的施策を記述すべきだと思った。

(出田委員)

- 14 ページ 6 行目は「輸出先の規制」だけでなく、輸出先の取引先からの要求事項も含めるニュアンスを入れた方が良いと思う。
- 15 ページ 3 行目の「標準エコシステムの強化」では、事業者側の主語として「経営層」を明記すべきだと考える。有用性を認知しリソースを出すのは経営層だからである。
- 支援体制における人材確保のための資金面についても触れるべきであり、支援者側の人材を確保するためには、将来的には事業者側からの資金供給モデルも検討して良いのではないかと感じた。
- 16 ページの「資金支援」については、単なる補助金で終わらせず、利益からの再投資サイクルにつながるよう、具体的な支援内容や将来像を明確にすべきだと思った。
- 図表 3 や 15 ページには、規格作成者だけでなく適合性評価機関も入れるべきだと考える。第三者認証機関の育成がなければ、海外への普及も進まないためである。

(谷貝委員 (事務局にて代読))

- 3.2 の 14 ページ中央付近の標準化に関する 4 点について、もう少し具体的な記載をすべきだと思った。
- 15 ページ 3 行目以降の「標準エコシステムの強化」は人材育成に偏っているが、標準・試験・認証をパッケージ化するためには、専門機関や認証機関等の育成も必要であるため、その旨を追記すべきだと感じた。

2.3) 全体に関する意見交換

(オブザーバー)

- 各所に「スマート農業」とあるが、日本の食品製造に関連する「スマートファクトリー」という言葉も入れるべきだと考えた。
- 「農林水産業」と謳いながら林業への言及が少ないため、カーボンクレジット等で林業に関する記述を加えるべきだと思った。
- 植物工場に関しても、日本にとって課題となりつつある分野だと思うため、記述を加えるべきだと考えた。
- 高機能バイオ素材について、農林水産省の所掌範囲か不明確なため、他省庁との連携が必要だと読み取れる記述にすべきだと思った。
- 1 ページ 17 行目の表現は、「国際標準化を通じた国内外の課題解決と市場創出のために」といった形の方が適切ではないかと感じた。
- 3 ページの「第三者適合性評価の仕組み整備が不可欠」という記述は、分野によっては不要な場合もあるため、言い過ぎではないかと疑問に思った。
- 15 ページ 4 行目の「国際標準は守るべきルール」という記述について、何を指して守るべき記述としているか不明確なため、意図を明確にすべきだと思った。
- 15 ページの「国際会議の場で戦略を立てて」という記述は、それでは遅いため、会議前の段階から戦略を立てるニュアンスに修正すべきだと考えた。

2.4) 今後のスケジュール

(事務局 山田)

- (事務局から今後のスケジュールについて説明、閉会の挨拶を実施。)

以上